

日本フィル&サントリーホール

とっておき アフタヌーン

2021~22
シーズン
Vol.16

2021.6.7(月)

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA & SUNTORY HALL

MATINEE CONCERT SERIES ON WEEKDAYS

“Totteoki Afternoon” Vol. 16

日本フィル&サントリーホール
とっておき アフタヌーン Vol. 16

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA
&
SUNTORY HALL
MATINEE CONCERT SERIES ON WEEKDAYS
“Totteoki Afternoon” Vol. 16

2021年6月7日(月) 14:00開演
サントリーホール 大ホール

Monday, June 7, 2021 at 14:00
Suntory Hall, Main Hall

指揮: 川瀬賢太郎
Kentaro Kawase, Conductor

ヴァイオリン: 岡本誠司
Seiji Okamoto, Violin

ナビゲーター: 高橋克典
Katsunori Takahashi, Navigator

日本フィルハーモニー交響楽団
Japan Philharmonic Orchestra

コンサートマスター: 木野雅之 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]
Masayuki Kino, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ: 菊地知也 [日本フィル・ソロ・チェロ]
Tomoya Kikuchi, JPO Solo Violoncello

[主 催]

日本フィルハーモニー交響楽団 / サントリーホール

[協 力]

The Okura Tokyo / ANAインターコンチネンタルホテル東京

ヴェルディ: オペラ『アイダ』より 凱行進行曲
Giuseppe Verdi: Triumphal March from *Aida*

J. S. バッハ: ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 BWV 1052R
Johann Sebastian Bach: Violin Concerto in D Minor, BWV 1052R

I. Allegro

II. Adagio

III. Allegro

ヴィエニャフスキ: 『華麗なるポロネーズ』第1番 ニ長調 作品4
Henryk Wieniawski: *Polonaise brillante* No. 1 in D Major, Op. 4

ヴァイオリン: 岡本誠司
Seiji Okamoto, Violin

— 休憩 —
intermission

ワーグナー: 楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』WWV 96 より
第1幕への前奏曲

Richard Wagner: Prelude to Act 1 from *Die Meistersinger von Nürnberg*, WWV 96

ハイドン: 弦楽四重奏曲第77番 ハ長調 Hob. III: 77「皇帝」より 第2楽章
Joseph Haydn: String Quartet No. 77 in C Major, Hob. III: 77, “Emperor”

II. Poco adagio: Cantabile

第1ヴァイオリン: 木野雅之 Masayuki Kino, 1st Violin

第2ヴァイオリン: 神尾あずさ Azusa Kamio, 2nd Violin

ヴィオラ: デイヴィッド・メイソン David Mason, Viola

チェロ: 菊地知也 Tomoya Kikuchi, Cello

ホルスト: 組曲『惑星』作品32 より 第4曲「木星、快樂をもたらす者」
Gustav Holst: No. 4 “Jupiter, the Bringer of Jollity” from *The Planets Suite*, Op. 32

◆マスクを着用されていない方のご入場はお断りしております。ご鑑賞中も含め、館内では常時マスクをご着用ください。◆館内でのお客様同士の会話、演奏に対するブラボーなどの掛け声はお控えください。◆こまめな手洗い、手指消毒、「咳エチケット」の励行をお願いいたします。◆出演者へ花束、プレゼントなどを直接お渡しすることや、楽屋入待ち、出待ちなどはお断りしております。◆時差退場へのご協力をお願いいたします。



©Yoshinori Kurosawa

指揮: 川瀬賢太郎
Kentaro Kawase, Conductor

1984年東京生まれ。2007年東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻(指揮)を卒業。これまでに指揮を広上淳一などに師事。06年10月に行われた東京国際音楽コンクール<指揮>において1位なしの2位(最高位)に入賞、以後各地のオーケストラから次々に招きを受ける。海外においてもイル・ド・フランス国立管などと共演。オペラにおいても、細川俊夫作曲『班女』やモーツァルト作曲『フィガロの結婚』などを指揮、目覚ましい活躍を遂げている。名古屋フィル正指揮者、神奈川フィル常任指揮者、オーケストラ・アンサンブル金沢常任客演指揮者、三重県いなべ市親善大使。東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)特任講師。



©S. Ohsugi

ヴァイオリン: 岡本誠司
Seiji Okamoto, Violin

東京藝術大学を卒業後、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンの修士課程修了。第19回 J. S. バッハ国際コンクールのヴァイオリン部門にてアジア人で初めて優勝。ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクール第2位、エリザベート王妃国際音楽コンクールでのファイナリスト入賞など受賞歴多数。現在はクロンベルク・アカデミーに在籍し、ベルリンにて研鑽を積みながら、日本およびヨーロッパで、ソロはもちろん室内楽など精力的な演奏活動を行っている。これまでに読響、新日本フィル、名フィル、ベルギー国立管、サンクトペテルブルク響など国内外のオーケストラとの共演を重ねている。NPO法人イエロー・エンジェルよりG. F. プレッセンダの貸与を受け、(株)日本ヴァイオリンより名器貸与特別助成を受けている。



ナビゲーター: 高橋克典
Katsunori Takahashi, Navigator

神奈川県横浜市生まれ。1993年『抱きしめたい』で歌手デビュー。その後、俳優としても活躍。代表作「サラリーマン金太郎」や「特命係長 只野仁」「警視庁岡部班」「庶務行員 多加賀主水」「不惑のスクラム」では主演を務め、他のドラマでも多彩な演技でストーリーを支え、幅広いファン層に支持されている。2015年にNHK BS時代劇「子連れ信兵衛」シリーズに主演、20年には大河ドラマ「麒麟がくる」、NHK BSプレミアム「十三人の刺客」、「明治開化 新十郎探偵帖」に出演するなど時代劇にも活躍の場を広げている。21年9月から舞台『酔いどれ天使』(9月:明治座/10月:新歌舞伎座)に出演予定。両親は共に音楽家で、小学生の頃はピアノとトランペットに親しみ、現在もロック、ジャズ、クラシックと音楽全般に関心をもっている。



©堀田力丸

日本フィルハーモニー交響楽団
Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月創立、楽団創設の中心となった渡邊曉雄が初代常任指揮者を務める。創立60年の歴史と伝統を守りつつ、「音楽を通して文化を発信」という信条に基づき、「オーケストラ・コンサート」、「エデュケーション・プログラム」、「リージョナル・アクティビティ」という三つの柱で活動を行っている。現在、首席指揮者にピエタリ・インキネン、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名誉指揮者小林研一郎、正指揮者山田和樹という充実した指揮者陣を中心に演奏会を行っている。2011年4月より、ボランティア活動「被災地に音楽を」を開始。21年1月末までに300公演を数え、現在も継続している。BS朝日 毎週水曜夜10:54「Welcomeクラシック」出演。オフィシャル・サイト <https://www.japanphil.or.jp/>



「勝つ! 克つ! 活! クラシック」と題した今回。

スポーツイベントなどで耳にする、気持ちが高まる楽曲を集めました。

今、困難に立ち向かい、乗り越えようとするすべての方々の心へ、「応援歌」をお届けいたします。

ヴェルディ: オペラ『アイダ』より 凱旋行進曲

サッカー国際試合における日本の応援ソングとして皆さんも耳にしたことがあるだろう。イタリア・オペラ史に燦然と輝く傑作『アイダ』はジュゼッペ・ヴェルディ(1813~1901)がエジプトのカイロ歌劇場の開場記念に依頼されて創作した全4幕のオペラ。ファラオ時代のエジプトを舞台に、戦いと悲恋が描かれる。有名な凱旋行進曲は、戦いに勝利したエジプト軍が凱旋する場面で演奏される。オペラではエジプト風のアイダ・トランペットがオーケストラからは離れた舞台上で演奏され、合唱・バレエも登場する絢爛豪華な演出が見どころだ。

J. S. バッハ: ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 BWV 1052R

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ(1685~1750)は、1台用から4台用まで14曲のチェンバロ協奏曲を作曲したと言われているが、その中でも最も完成度が高く有名なこのBWV 1052Rの原曲は、消失したヴァイオリンのための協奏曲であると考えられている。華やかさと深い音楽性を兼ね備え、さまざまな楽器で演奏しても作品の良さが損なわれないバッハの楽曲の好例と言えるだろう。岡本誠司さん本人が、「バッハのヴァイオリン協奏曲の中でいちばん好き」と演奏を熱望し選曲した。第19回J. S. バッハ国際コンクールヴァイオリン部門優勝者である岡本さんの、作曲家へ寄せる深い造詣と敬愛が感じられる。

ヴィエニャフスキ:『華麗なるポロネーズ』第1番 ニ長調 作品4

ヴァイオリン奏者の登竜門「ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクール」にその名を冠す、ヘンリク・ヴィエニャフスキ(1835~80)は、驚異的な名人技と情熱的な演奏で一世を風靡した高名な演奏家であった。作曲家としても、ポーランドではショパンの次に有名とされ、2016年に岡本さんがコンクールに参加し第2位に入賞した際は、国民がこぞって盛り上がり、音楽に対する意識が高いことが印象的だったとか。技巧的ではあるが明快で楽しい作品で、聴く人にヴァイオリンのもつ豊かな魅力を満喫させてくれる作品である。

ワーグナー: 楽劇『ニュルンベルクのマイスタージンガー』WWV 96 より 第1幕への前奏曲

リヒャルト・ワーグナー(1813~83)のこの前奏曲は、その堂々とした響きと明るい光彩を放つ音の流れによって絶大な人気を博す名曲。中世ドイツの徒弟制度を背景に、エーファという美しい娘に恋する2人の男性が作詩、作曲、歌唱の技量を競い、恋の決着をつけようという恋愛風刺喜劇である。前奏曲は風格のあるマイスタージンガー(親方の資格をもつ歌手たち)の入場行進を示す主題に始まり、歌合戦開始の合図のようなファンファーレ、そして騎士ヴァルターへの愛の歌など3つの主題を中心に構成されている。



ハイドン: 弦楽四重奏曲第77番 ハ長調 Hob. III:77「皇帝」より 第2楽章

二度のロンドン演奏旅行中に、イングランドの人々が現イギリス国歌「神よ王を守らせたまえ」を歌い、君主への忠誠を誓う様子を目の当たりにしたヨーゼフ・ハイドン(1732~1809)。自国君主のために「神よ、皇帝フランツを守りたまえ」を作曲し、弦楽四重奏曲「皇帝」の第2楽章ではこの曲を交響曲に仕上げた。現ドイツ国歌にも転用された雄大な旋律を、本日は日本フィル首席奏者による弦楽四重奏でお楽しみいただきたい。

ホルスト: 組曲『惑星』作品32 より 第4曲「木星、快楽をもたらす者」

イギリスの作曲家グスタフ・ホルスト(1874~1934)の代表作で、ホルスト自身は「惑星の占星術的なキャラクターが着想となっていないが、標題音楽ではない」と語っている。しかし、各楽章に付けられた7つの惑星の名前と性格は、聴き手を否応なく神秘あふれる宇宙へとといざなう。第4曲「木星、快楽をもたらす者」は、祝祭的色彩を持つ歓喜にあふれた楽曲。有名な旋律はイギリスの愛国的な賛歌「我が国よ、わたしはあなたに誓います」として親しまれる以外にも、ラグビーや陸上といったスポーツイベントのテーマソングに採用されるなど、多くの人を魅了している。

◆ 有料オンライン配信のお知らせ ◆

本日のコンサートのライブ配信映像を、見逃し配信でもご覧いただけます。
お好きな時間と場所で何度でもお楽しみください。

視聴券 ¥2,200 視聴期間 2021年6月13日(日)23:00まで

※デジタルサントリーホール(サントリーホール・メンバーズ・クラブWEB/チケットびあ)、イープラスでの取り扱い

— SNSキャンペーン —

Twitterで感想を投稿された方の中から、抽選で出演者サイン入りパンフレットをプレゼント
詳しくは、とっておき アフタヌーン @totteokiafternn 公式Twitterをチェック

◆ 次回のお知らせ ◆

日本フィル&サントリーホール
とっておき アフタヌーン

Vol. 17
14:00開演

2021.9.27月

指揮・お話: 田中祐子 ピアノ: 福岡洗太郎
ナレーター: 森田順平

ラフマニノフ: パガニーニの主題による狂詩曲 作品43

グリーグ: 組曲『ペール・ギュント』第1番 作品46/第2番 作品55(ナレーション付き)

S ¥5,500 A ¥4,400 B ¥3,300 明日から先行発売開始

日本フィル各種会員、サントリーホール・メンバーズ・クラブ
先行発売: 6月8日(火)~14日(月)
一般発売: 6月15日(火)~

詳しくはHPをご覧ください▶



田中祐子 ©sajihideyasu/福岡洗太郎 ©Marc Bouhiron



人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。



JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

創立指揮者 渡邊 暁雄



SUNTORY HALL
夢を奏でる場所
The Home of Applause